

## 令和3年度東部地区社会教育関係委員・職員研修会実施計画

全体司会 埼玉葛郡市社会教育振興会副会長

### 1 開会行事

- (1) 開会の言葉
- (2) 主催者挨拶 埼玉県教育局東部教育事務所長  
北埼玉地区社会教育委員協議会長
- (3) 来賓挨拶 蓮田市教育委員会教育長
- (4) 来賓・主催者紹介

### 2 実践発表・パネルディスカッション・指導助言

司会 北埼玉地区社会教育委員協議会幹事  
記録 埼玉葛郡市社会教育振興会幹事

#### (1) 実践発表

蓮田市

「人々をつなげる社会教育の役割  
～市民ボランティア学芸員制度を中心に～」  
蓮田市教育委員会社会教育課 生涯教育担当  
蓮田市市民ボランティア学芸員

杉戸町

「人々をつなげる社会教育の役割  
～社会教育からみたフードパントリー～」  
杉戸町生涯学習審議会委員 寺田 竹雄 氏

・・・休憩・・・

#### (2) パネルディスカッション

テーマ 『人々をつなげる社会教育の役割』 ～withコロナの時代に～ コーディネーター 総合教育センター パネリスト 久喜市 蓮田市 杉戸町
--

#### (3) 指導助言 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課 社会教育主事

### 4 閉会行事

閉会の言葉

## 【実践発表①の概要】

蓮田市教育委員会 社会教育課 生涯教育担当・蓮田市市民ボランティア学芸員  
人々をつなげる社会教育の役割～ 市民ボランティア学芸員制度を中心に～

### 1 市民ボランティア学芸員とは

蓮田市を中心とした歴史を振り返り、先人の営みを知り、未来の蓮田を考えながら、個人が持つ知識と能力を蓮田市が行う文化財行政、まちづくり、文化財の活用に生かすことを目的としている。

### 2 組織体制と活動の実際

事務局を蓮田市教育委員会社会教育課におく。この制度の目的に賛同するものは、養成講座に随時参加することができる。既定の履修を終了したものを、「市民ボランティア学芸員」と認定する。活動の実際は、以下のようなものがある。

- ・講座に参加し、市民ボランティア学芸員相互に学び合う。
- ・市民ボランティア学芸員自身が企画・準備し、養成講座を実施する。
- ・展示施設の展示替えの補助を行う。
- ・ボランティア学芸員が中心となった企画展示を行う。
- ・各種行事で展示施設や史跡のガイド補助を行う。
- ・古文書の解読作業の補助を行う。

### 3 成果と課題

- 市民が主体的に学びその成果を発揮できる場があるという、生涯学習のよいモデルとなっている。
- 郷土の史跡や文化財について関心と愛着が深まり、その特徴や価値について市民に広めている。
- 市民ボランティア学芸員同士の学び合いが活発になり、仲間づくりが広がっている。
- 市が主催するイベントにおいて活動を広報することで、地域活性化に繋がっている。
- ◇市民ボランティア学芸員の専門性を深め、よりよい活動を目指していく。
- ◇新たな人材を発掘し育成するなど、持続可能な組織づくりを目指していく。

### 4 埼玉県教育局生涯学習推進課及び東部教育事務所から

志ある市民が受講者として学び、ボランティア学芸員として養成講座の企画や展示施設のガイドなどの活動を通して学びの成果を発揮できる、「学びと活動の好循環」を生み出す、素晴らしい事例をお示しいただきました。ボランティア学芸員の専門性を生かしながら、市民が気軽に楽しみながら体験できるワークショップを開催できたことは、この制度を普及・啓発する上で非常に有意義であると思います。

今後、学校教育と連携し体験活動の出前講座を実施する、市のホームページ等で活動状況を発信するなどして、活動の幅を広げていくことも考えられます。さらに、ボランティア学芸員の専門性を磨き成就感を実感するために、他の自治体の団体と交流し学び合う機会を設定する、成果をまとめあらゆる機会に報告するなどが考えられます。

## 【実践発表②の概要】

杉戸町生涯学習審議会委員 寺田 竹雄 様  
人々をつなげる社会教育の役割 ～社会教育からみたフードパントリー～

### 1 すぎと子育て応援フードパントリーとは

人と人をつなげることから、食品ロス解消と食品無料配布を目指す。配布場所をそれに関わる人々の居場所とし、食品地産地消的活動を目指した取り組みを行う「すぎと居場所づくり応援隊」の活動。

### 2 活動に向けた事前準備と活動の実際

#### 埼玉フードパントリーネットワーク 加盟

県内で、ひとり親世帯など子育て中で食品支援が必要な家庭を対象にした配付団体のネットワークで、団体相互の情報交換や交流促進をねらいとしている。寄付食品を一括受領し各団体に分配するなど、フードパントリー活動をサポートする団体である。

#### 現地研修会、子どもの貧困問題学習会への参加

他市のフードパントリーを見学したり、当隊主催の子どもの貧困問題やフードバンク事業についての講義を聴いたりして、活動の目的やその実際について理解を深めた。

#### 組織体制の構築

代表、副代表のもと、月1回の定例会というシンプルな組織体制にし、配付物資の運搬、仕分け、配布PR等は、できる人ができる時に参加できる体制を築いた。

#### 関係機関との連携

杉戸町、杉戸町教育委員会、杉戸町社会福祉協議会などと連携を図り、フードドライブの協力やチラシの配布、配付物資の運搬・保管や会議場の提供などを依頼している。

### 3 成果と課題

- 応援隊の隊員がフードバンク事業に携わるなかで、パントリー利用者から感謝の言葉をいただくことで、やりがいを感じている。
- ひとり親家庭への食品支援が継続でき、地産地消とフードロス低減へと繋がっている。
- 農作物の提供、フードドライブへの食品提供など、町民の共助の意識が高まっている。
- ◇年間を通して絶えず食品が寄贈されるような、地産地消的な流れを築いていくことが課題である。

### 4 埼玉県教育局生涯学習推進課及び東部教育事務所から

人々がよりよい地域社会をつくるために、地域の課題を把握し、学び、活動し成果へと繋げる「地域コミュニティづくり」のすばらしい事例をお示しいただきました。他の自治体の事例から学び、お住まいの自治体ではどのような活動が可能なのか、持続可能な形を追求する一連の流れは、生涯学習そのものであると思います。県内の関係団体や行政、地域住民と繋がりをつくるために、計画を立て見通しをもって働きかけを行うことが重要ですが、何よりも情熱が人々の心を繋ぐのだと思います。

今後、アウトカム（町民や地域社会に与えた成果・効果）を緻密に検証し広報することで、支援と参画の輪が広まり、たとえ災害時であっても人々が支え合うことができるような、よりよい地域コミュニティづくりへと繋げていただきたいと思います。